

那須野が原博物館 中期目標項目・自己評価シート
第1期(平成24～28年度)

| 中期目標の項目 | 中期目標の内容 | 評価指標 | 28年度目標値(5か年) | 25年度目標値 | 25年度実績 | 備考 | |
|----------------|---|--------------|--------------|---------|---------|---|---------------------------|
| 1. 資料の収集と保存・活用 | | | | | | | |
| 1-1 資料の収集 | 収集方針をもとに寄贈・購入・採集を通して積極的かつ継続的に収集します。 | 収蔵資料総件数 | 65,047件 | 63,777件 | 70,887件 | H26.3.31現在 歴史16,606件、民俗 5,198件、考古2,832 件、美術2,833件、文学 34件、地学376件、植 物4,946件、動物36,611 件 合計70,887件 | |
| | | 新規収集資 料件数 | 歴史(寄贈を除く) | 65件 | 13件 | 86件 | 養蚕関係資料ほか |
| | | | 民俗(寄贈を除く) | 0件 | 0件 | 9件 | おもちゃ絵 |
| | | | 考古(寄贈を除く) | 0件 | 0件 | 0件 | |
| | | | 美術(寄贈を除く) | 91件 | 18件 | 1件 | 臥遊席珍 |
| | | | 文学(寄贈を除く) | 25件 | 5件 | 0件 | 初版本 |
| | | | 地学(寄贈を除く) | 150件 | 30件 | 12件 | 化石標本 |
| | | | 植物(寄贈を除く) | 250件 | 50件 | 0件 | |
| | | | 昆虫(寄贈を除く) | 1,500件 | 300件 | 0件 | |
| | | | 動物(寄贈を除く) | 35件 | 7件 | 2件 | 哺乳類 |
| | | | 寄贈他(全分野) | — | — | 4,403件 | 昆虫4,271件、歴史119 件、民俗13件 |
| | | 合計 | 2,116件 | 423件 | 4,474件 | | |
| | | 収蔵図書総件数 | 12,482件 | 12,362件 | 13,074件 | H25.3.31現在 12,730件 | |
| 新規収集図 書件数 | 購入 | 150件 | 30件 | 17件 | | | |
| | 寄贈・その他 | — | — | 327件 | | | |
| 1-2 資料情報の公開 | 収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。 | 収蔵資料情報公開件数 | 10,000点 | 2,000点 | 15,714点 | s-net登録件数H25年 度片山ハチ類コレクション 6,362点 | |
| 1-3 資料の適切な管理 | 必要な収蔵スペースを確保するとともに、収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。 | 燻蒸回数 | 那須野が原博物館 | 5回 | 1回 | 1回 | |
| | | | 附属施設 | 5回 | 各1回 | 各1回 | |
| | | 収蔵庫の増設 | | | | 27年度設計 28年度本體工事 予 定 | |
| | 歴史資料 | 50件 | 10件 | 0件 | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|-------------------|-------------|------|------|------|------------------------------------|
| | 資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。 | 資料の修復 | 考古資料 | 25件 | 5件 | 5件 | |
| | | | 美術資料 | 5件 | 1件 | 20件 | |
| | | | 美術資料(ブロンズ化) | 3件 | 1件 | 1件 | |
| 1-4 資料の活用 | 常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。 | 展示利用率 | 常設展示 | 1.0% | 1.0% | 0.9% | 展示件数合計／総収蔵件数 |
| | | | 企画展示 | 5.0% | 5.0% | 2.2% | Σ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数 |
| | | | トピックス展他 | 1.0% | 1.0% | 0.3% | Σ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数 |
| | | | 黒磯郷土館 | 1.0% | 1.0% | 1.0% | 展示件数／収蔵件数 |
| | | | 日新の館 | 0.5% | 0.5% | 0.8% | Σ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数 |
| | | | 関谷郷土資料館 | 1.2% | 1.2% | 1.1% | 展示件数／収蔵件数 |
| | 収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。 | 貸出回数 | | — | — | 5回 | 国立歴史民俗博物館・栃木県立博物館(3回)・群馬県立日本絹の里 |
| 【特記事項】 | 資料、図書ともに既に5か年目標の数値を上回っている(寄贈分による増加の影響が大きい)。資料の展示利用率は、企画展示3回中2回が館蔵資料を利用しないものであったこと、また常設展示リニューアルに伴う展示室閉鎖のため展示開催回数が少なかったため、例年よりも低い値となっている。 | | | | | | |
| 【課題・改善点等】 | 年々資料数が増えているため、収蔵庫のスペースが既に限界近くなっているのが現状。早急に収蔵庫の増設が必要である。 | | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | 那須野が原の自然・歴史・文化の特性を踏まえての資料収集や保存活動による成果が、常設展示のリニューアル展示に生かされ、地域住民に還元できることになり、常設展示の充実や質的向上が図られたことは、高く評価できる。しかし、今後は東日本大震災による地域文化財の散逸や世代交代による生活文化財の消失を防ぐためにも、収蔵庫の増設が急務である。また、現在実施中の那須塩原市動植物実態調査により採集された希少種を含む標本は、証拠標本として調査完了後に原則的に那須野が原博物館に保管されることになっているが、現在の収蔵庫のスペースでは収納不可能なので収蔵庫の増設が緊急の課題である。(資料活用の項目にある展示利用率は、数値目標としての意味を持ち得ないので、削除しても良いのではないかと。資料の利用点数や利用機関等を入れて、実数での評価方法が現実的ではないかと。) | | | | | | |
| 2. 調査研究 | | | | | | | |
| 2-1 調査研究活動の推進 | 那須野が原およびその周辺に関する調査研究、並びに博物館学的調査研究を積極的に行います。 | 那須野が原博物館紀要掲載論文の件数 | | 25件 | 5件 | 6件 | |
| 2-2 地域研究者等との協働に | 地域研究者を客員研究員に委嘱し、幅広い分野から調査研究を行います。 | 客員研究員数 | | 10人 | 2人 | 0人 | |

| | | | | | | |
|----------------|--|------------------|---------------------------|---------|---------|------------------------------------|
| よる調査研究の推進 | 那須を綴る事業を実施し、地域研究者による那須地方の研究成果を公開します。 | 地域研究者数 | 15人 | 5人 | 5人 | |
| 【特記事項】 | 那須を綴る事業については、25年度・26年度の2か年事業として実施。成果としての『那須をとらえる』出版及び「那須自然・文化セミナー」の実施は26年度。 | | | | | |
| 【課題・改善点等】 | 客員研究員の在り方については現在検討中。 那須を綴る事業は、展示の効果を検証し開催を取り止め、ブックレット『那須をとらえる』の発行と「那須自然・文化セミナー」の実施に編成をし直した。「那須」を自然・文化の側面から発信するとともに、地域の人たちに「那須」を再認識してもらい機会と位置付けるために、2事業に特化した。 客員研究員については、市民(専門的知識を有する市民)との協働において一つの試みと思われるが、特定な人を招聘することはできなくて制約してしまうことにもなりかねない。また、現在博物館活動において、多くの研究者と協力しながら活動を進めているのも事実である。より良い、カタチを求めて市民とともに模索したい。 | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | 地域研究団体との連携や館職員の調査・研究を通して、資料の収集や博物館紀要などに記録化している活動は、当館が掲げている市民との協働を図る事業として高く評価できる。しかし、「那須を綴る事業」や客員研究員制度は、やや専門性が強い。今後は、当館の運営・活動のテーマに沿って調査研究内容の充実やテーマを明確にした講座の設定、および計画的な出版活動を通して、地域還元や市民協働の環境づくりを図られたい。 | | | | | |
| 3. 展示 | | | | | | |
| 3-1 企画展示の開催 | 収蔵資料の有効活用を図るとともに、地域または各分野のテーマを深く理解するため、企画展示等を開催します。 | 企画展示の開催回数 | 25回 | 5回 | 3回 | |
| | | 企画展示の観覧者数(学校を除く) | 66,600人 (H28年度16,000人) | 13,188人 | 10,349人 | 目標値:過去5か年のうち最多・最小を除く3か年の平均×1.1 |
| | | 観覧者の満足度(平均) | 90% | 90% | 90% | 5段階評価のうち、上位2位の合計 |
| 3-2 企画展示の理解促進 | 図録の発行、記念講演会・展示解説等の開催により、観覧者が展示内容を理解しやすいようにします。 | 図録の発行件数 | 5件 | 1件 | 1件 | 図録『近代シルク物語』 |
| | | 関連事業の参加率 | 70% | 60% | 59% | 近美79%、エビカニ28%、シルク69% |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 88% | 近美96%、エビカニ83%、シルク84% |
| 3-3 常設展示の充実 | 常設展示の充実を図ります。 開館10周年に展示リニューアルを行います。 | | | | | 実施済み |
| 【特記事項】 | 3回の企画展示(特別展:近代シルク物語、東京国立近代美術館名品展Ⅲ、移動展:エビ×カニLABO)を開催。H25年度観覧者数:15,713人(うち学校見学5,195人)・利用者数32,933人。常設展示をリニューアルし、展示の充実を図った(H26年1～3月は工事のため展示室を閉鎖)。 | | | | | |
| 【課題・改善点等】 | 特別展の来館者数は当初の見込みより下回った。より多くの市民に受け入れられるような展示コンセプトの構築と広報体制の強化を図る必要がある。ただ、今日社会では数多くの催し物が開催され、イベントが花盛りである。こうしたものと差別化を図りながら、地域文化の底上げを行うことを念頭に置く必要がある。 | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | リニューアルによって、展示内容の質的向上や充実化が図られ、地域の自然や歴史・文化の価値や特性がよりわかりやすくなった。今後も、教育普及や市民の地域意識の向上に資する活動を続けられたい。 企画展や特別展は、高度情報化や各地のイベント増加を考慮してのテーマの明確化・差別化・広報体制・活動の工夫などが必要であろう。 | | | | | |
| 4. 教室講座 | | | | | | |
| 4-1 教室の実施 | 子ども・親子を対象に各種教室を開催し、体験を通じた学習活動を展開します。 | 参加率 | 90% | 85% | 100% | 土器55%、昆虫107%、化石123%、科学130%、はたおり83% |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 98% | |
| 4-2 講座の実施 | 一般を対象に講座を開催し、地域の自然・文化に対する認識を深めます。 | 参加率 | 70% | 60% | 45% | セミナー54% 自然講座36% |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 86% | |

| | | | | | | |
|------------------|---|-----------------|--------|--------|------|---|
| 4-3 博物館フェスタの実施 | 博物館をより身近に感じていただくために博物館フェスタを開催します。 | 来館者数(延べ) | 1,200人 | 1,200人 | 880人 | |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 100% | |
| 4-4 親子体験チャレンジの実施 | 創作活動を通じて、昔のくらしや自然科学への理解を促進します。 | 参加率 | 70% | 60% | 73% | 24回実施 |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 87% | |
| 4-5 各種普及事業の実施 | シンポジウムや研究発表会を開催し、市民とともにこれからの地域のあり方を探ります。 | 参加率 | 70% | 60% | 74% | シンポジウム55% 研究発表会93% |
| | | 参加者の満足度(平均) | 90% | 90% | 96% | |
| 4-6 生涯学習活動の支援 | 質問や相談等に対応し、市民の生涯学習に寄与します。 | レファレンス件数 | 100件 | 20件 | 件 | 同定依頼、地域史、収蔵資料等 |
| 【特記事項】 | 一般を対象に、那須周辺域セミナー「群馬・両毛の蚕糸業を探る」、那須塩原自然講座「黒磯山間地の自然」を開催。子ども・親子対象の教室として、土器づくり・昆虫・化石・科学・はたおりの5コースを実施。チャレンジはチラシの配布範囲を拡大したところ、参加率が上昇した。 | | | | | |
| 【課題・改善点等】 | 一般を対象とした事業(自然講座・セミナー・シンポジウム)の参加率が低かった。いずれも継続して実施している事業であり、テーマの隔たりや狭窄傾向、マンネリ化が危惧される。長期的な目標を見据えたうえで、テーマの設定や講座の運営方法を改善したい。なお、シンポジウムはH26年度で終了したい。 | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | 当館が掲げる「市民協働」の活動を具現化している事業として高く評価する。「親子体験チャレンジ」事業は、広報・案内の拡充や活動内容の明確化により活性化しているのは、望ましいことである。しかし、一般向けのセミナーやシンポジウムなどの参加率の低下は、今後の課題である。市民の地域意識や他施設の活動内容を考慮しての差別化や長期計画の設定・テーマの明確化・内容の工夫などが必要であろう。 | | | | | |
| 5. 地域との連携 | | | | | | |
| 5-1 各種機関等との連携・協力 | 各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。 文化・自然に関する活動に対し、学術的な協力をを行います。 | 連携事業件数 | 20件 | 4件 | 4件 | ビクター展示、フイマ、コンサート、環境企画展 |
| | | 協力件数 | 30件 | 6件 | 8件 | 市生涯学習課、市環境管理課2人、栃木県(文化財、歴史の道)、鹿沼市、大田原市、那珂川町 |
| 5-2 学校教育との連携 | 学校による見学・体験学習の充実を図るとともに、収蔵資料の貸出し・出張授業等により学校教育の支援を行います。 | 学校来館数(那須野が原博物館) | 500校 | 100校 | 113校 | |
| | | 学校来館数(黒磯郷土館) | 25校 | 5校 | 9校 | 幼稚園1件含む |
| | | 資料貸出件数 | 75件 | 15件 | 27件 | ビデオ19件、民具6件、開拓2件 |
| | | 出張授業件数 | 50件 | 10件 | 5件 | 開こん記念祭4件、郷土学習1件 |
| 5-3 実習等の受け入れ | 博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。 | 博物館実習・職場体験件数 | 50人 | 10人 | 13人 | 博物館実習5人、マイチャレ 2人、作新高5人、白鷗大1人 |
| 5-4 市民との協働 | 「那須を綴る」事業により、市民による調査・公開・編纂を進めます。 団体・研究者等との協働により、資料や情報の収集を図ります。 ボランティア活動を支援し、市民による教育普及活動を促進します。 | | 3回 | 1回 | 1回 | 1回/2年 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 【特記事項】 | ボランティアによる教育普及活動である石ぐら会「入門講座」、いろりの会「昔のおもちゃづくり」、那須文化研究会「講演会」、那須野ヶ原開拓史研究会「講演会」、那須野が原の自然調査会「一般向け観察会」、西那須野土器づくりの会「一般向け土器づくり教室」、語り部炉ばた「民話語り」等の支援を行った。また、ジュニア生き物クラブの立上げ・運営に協力した。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|-----------------------|----------|---------|---------|----------------------------|
| 【課題・改善点等】 | 自主団体の活動は、地域の解明や子どもたちへの地域理解、市民に対する地域づくりの支援を行っている。自主団体が、活動しやすい環境づくりが大事である。石ぐら会との協働により、H25年度にリニューアルした常設展示の案内方法を検討し、来館児童の効果的な学習につなげたい。 | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | 常設展示リニューアルにより、展示内容が変わり、「石ぐら会」との協働による案内内容や案内方法の工夫改善などを通して、来館児童に対する効果的な学習につなげていただきたい。 また、学校教育や社会教育に対する地域意識が変容する中で、学校教育や公民館活動との情報交換や連携強化が必要であろう。 さらに、市民による「博物館協力員」制度などにより、地域研究活動を企画展や特別展につなぐ活動や参加協力による学芸員の労力軽減化を図れないものか。 | | | | | |
| 6. 施設整備 | | | | | | |
| 6-1 施設の維持管理 | 施設を安全かつ快適な環境に保ち、資料の適切な保管環境を整えます。 | 施設の清掃、空調設備のメンテナンス及び更新 | | | | |
| 6-2 危機管理体制の強化 | 自然災害や火災・盗難・事故等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。 | 防災訓練の実施回数 | 10回 | 2回 | 2回 | |
| | | 危機管理体制の整備状況 | | | | |
| 6-3 附属施設活動の充実 | 附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。 | 黒磯郷土館来館者数 | 1,800人 | 1,800人 | 1,821人 | |
| | | 黒磯郷土館来館者の満足度(平均) | 90% | 90% | % | 回収なし |
| | | 日新の館来館者数 | 1,500人 | 1,500人 | 1,804人 | |
| | | 日新の館企画展の開催回数 | 25回 | 5回 | 5回 | 高久靄厓展・昆虫展・キルト展・峰村北山展・昔の道具展 |
| | | 日新の館来館者の満足度(平均) | 90% | 90% | 79% | |
| | | 関谷郷土資料館来館者数 | 14,000人 | 14,000人 | 11,363人 | |
| | | 関谷郷土資料館来館者の満足度 | 90% | 90% | % | 回収なし |
| 【特記事項】 | 施設の清掃、機器のメンテナンス、防災訓練等は計画的に実施している。黒磯郷土館では昔のくらし体験、昔のおもちゃづくり体験を実施、日新の館では5回の企画展と草木染め、掛軸の取扱い教室を実施した。 | | | | | |
| 【課題・改善点等】 | 施設の機器に経年劣化による故障が見られ、定期的な修繕が必要である。収蔵庫の増設については、早急に必要な実施がある。 | | | | | |
| 【外部評価委員 所見】 | 常設展示リニューアルにより、広報機能や施設整備の充実化が図れたことは、大きな成果である。今後、さらに収蔵庫の拡充を含めて、施設保全・拡充化を図っていただきたい。 また、施設の管理は、地域文化の保存・継承を担うための最も留意しなければならない項目である。開館10年を経て経年劣化の改善など、施設のメンテナンスと併せて強化していただきたい。 | | | | | |
| 7. 組織人員 | | | | | | |
| 7-1 効率的な組織運営 | 情報の共有化や事務事業の分担を促進し、効率的な運営に努力します。 | | | | | |
| 7-2 意識改革と資質の向上 | 職員全員が当館の使命及び目標を認識するとともに、能力開発・資質向上に努めます。 | | | | | 研修参加：栃博協主催2名 |
| 7-3 効果的な広報体制 | 各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。 | マスコミ・メディア等の掲載回数 | 100回 | 20回 | 36回 | 新聞13回、情報誌15回、ラジオ3回、テレビ5回 |
| | | ホームページの閲覧回数 | 300,000回 | 60,000回 | 92,531回 | |
| | | ホームページの更新回数 | 240回 | 48回 | 46回 | |

| | |
|-------------|---|
| 【特記事項】 | 広報については、ホームページをリニューアルし、スマートフォンやタブレットからでも見やすい環境を整えた。また、ソーシャルメディア(Facebook)を利用したPRを開始した。 |
| 【課題・改善点等】 | 職員の退職が迫っているため、新たに学芸員を採用する必要がある。 |
| 【外部評価委員 所見】 | 付属施設を含めて、学芸員及び事務職員が不足している。文化施設の良否は、市民の文化意識を測るとなるから、行政の在り方がすぐにわかりよく見える。総合博物館としての運営・活動が健全に機能するためにも、学芸員・事務職の充実化を図られたい。 |

| |
|---|
| <p>【外部評価委員 総合所見・指摘事項】</p> <p>東日本大震災に対する地域文化財のレスキュー活動や地元資料の修復・保全を継続して実施していただきたい。資料の収集・保存・活用は、収蔵庫の容量や場所の確保が保障されなければならない。当館が誇る資料の保全を保証する収蔵庫の拡充をぜひ実現していただきたい。市民との協働を掲げる当館においては、専門的な知識を有する市民の発掘や研究団体の研究成果を当館の運営・活動に生かすための「博物館協力員(あるいは検討委員)」などを設置して、研究団体の活動成果を生かす機能や環境づくりが必要であろう。</p> <p>教育普及活動においては、関係機関との連携強化・マンネリ化を避ける活動内容の見直し、効果的な広報体制など、さらなる活性化を図られたい。企画展や特別展は、大切な事業である。市民の期待に応えられる内容にするために、長期計画の策定やテーマの明確化、および内容の充実化を図りつつ、予算の確保や調査研究の計画的な活動に努めていただきたい。施設整備については、附属施設の利用状況を踏まえて運営方針の見直し検討が必要であろう。また、総合博物館が健全に機能するための学芸員配置を是非お願いしたい。</p> |
| <p>【博物館の対応】</p> <p>平成25年度の那須野が原博物館は、年度事業の中心として「開館10周年記念常設展示リニューアル」を開館10周年の前年に行い、平成26年4月15日より開幕した。開館10周年という節目の時に10年間の活動成果を常設展示に表せたことは意義あることと思う。新たなお客様の開拓と学校見学の充実が図れるもの考える。ただ、平成27年度からは全国版の教科書に「那須野が原の開拓」が取り上げられなくなるといわれ、独自に地域学習の強化を図って行かなければならないであろう。</p> <p>収集・整理・保存活動については、「後世により良い文化遺産を残す」という使命のもとに、採集や寄贈・購入を含めて収集を続けている。基本的には、それを止めることは許されないと考える。現状としても、個々の家々で所有する地域資料が維持できないとも言われている。併せて、現在の収蔵庫は既に飽和状態にあり、一刻も早く収蔵庫の増設をしなければならない時期に来ていることは間違えない。</p> <p>また、調査研究・教育普及活動の面で、専門的知識を有する市民との協働の観点から、「博物館協力員」について課題として取り上げられている。既に那須野が原博物館においては、個々の研究者とそれぞれの場面で協力体制を組んでいる。今後、そうした体制を組み設置することが、実質的にプラスの方向へ行くかは、博物館協議会や研究団体、研究者との意見交換の中で考えて行きたい。</p> <p>教育普及活動は、現在の市民に対し地域理解の事業である。このことが、後の資料の継続的保存への意識付けとなることを確信している。ただ、現在地域社会においておびただしいほどのイベントが生まれ、それらが競争状態に入っている。この中で、博物館の活動のあり方を事業の評価の中から模索して行かなければならない。</p> <p>施設整備については、建設後10年以上が経過する中で、修繕を含め維持管理に計画的に対応して行かなければならない。附属施設については、合併から10年になる現在、施設のあり方を問いつつ、存在意義にも言及する中で、より良い方向性を導き出したい。</p> |